

4月3日

主教リチャード

Richard of Chichester

(1197/99~1253.4.3)

~オックスフォード大学総長~

イギリス、チチェスターの主教であったリチャードは、ウースターのウィッチで生まれたことから、ウィッチのリチャードとも呼ばれます。彼と兄ロバートとは幼くして両親を亡くし、二人の元には、多額の財産が残されました。しかしその財産を管理していた人は、兄弟の財産が減るに任せておいたために、彼ら二人は早くから働くこととなります。

そして家計の立て直しが一段落すると、リチャードは財産を兄に譲渡して、自らはオックスフォード、そしてパリなどに移り、法学の研究を続けていきます。そこで博士号を得た彼は、オックスフォードに戻り、オックスフォード大学の総長を1235年から38年まで務めます。

またカンタベリー大主教エドムンドの補佐官として外国に二度同伴します。

しかし、カンタベリー大主教エドムンドと当時のイングランド国王ヘンリー3世とは対立をしていました。そのため大主教はフランスに亡命したのですが、国王は大主教の世話をしていたリチャードのことも快く思っていないでした。大主教の死後、リチャード



「A Wall painting of
St. Richard of Chichester」

はドミニコ会の修道院でさらなる研究と教育を続け、1243年に司祭に叙任されます。そしてその翌年、チチェスターの主教に選ばれるのですが、国王ヘンリー3世はこれに反対し、主教庁への就任を拒否します。彼が正式に主教になったのは1245年でした。

またリチャードは霊的な指導者として自ら模範を示すとともに、教区の教会や修道院の改革運動に取り組みます。彼はその中で、次のように祈りました。

「主よ、あなたに3つのことを祈ります。より明らかに、あなたを見るができますように。より親しく、あなたを愛することができますように。より近く、あなたに従うことができますように。」

さらに彼は十字軍の推進者としても知られています。そして彼は1253年のサラセンに対する十字軍の軍事行動の間に熱病に冒され、天に召されます。

<特禱>

信ずる者の光、魂の牧者である全能の神よ、あなたは、その言葉によってあなたの羊を養い、その模範によって彼らを導くために、しもべ、主教リチャードを公会の主教に召されました。どうかわたしたちに恵みを与え、信仰を守り、その生涯に従うことができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン